

第4回山北町総合計画審議会 議事録

日時 平成31年1月7日(月) 14:00～

場所 山北町役場4階 401会議室

1. 開会

事務局 皆さんこんにちは。定刻前ではございますけれども、本日予定しております委員の皆様、すべてお揃いになりましたので、只今から第4回山北町総合計画審議会を開会致します。

2. あいさつ

会長 新年早々の大変お忙しい時期にお集まりいただきまして、ありがとうございます。計画の4章、5章が残っているということから、追加で開催することになりました。今日もどうぞよろしくお願ひ致します。

3. 議題

(1) 後期基本計画策定シートについて

会長 今日は第4章、安全安心で住みよいまちづくりから進める。

【第4章について】

委員 4-1-2 施策と事業 2 減災対策の推進

事業に「ブロック塀の安全対策の推進」が追加になったので、施策にもこれに関連する表記があったほうがよいのではないか。

4-2-1 施策と事業 2 環境にやさしいまちづくりの推進

事業に「新エネルギービジョンの調査研究・推進」が追加になったので、施策にもこれに関連する表記があったほうがよいのではないか。

委員 4-2-4 施策と事業 2 有害虫の駆除

観光客がヤマビルに刺されたら大きなダメージになるので、早期に解決してほしい

4-4-1 事業 1 第3次土地利用計画の策定

日向地区は農振法の指定になっていて、農道と用水路を整備したが、次の世代が農業をやるかはわからない。使っていない農家が多く一坪農園でなんとかやっている人も多い。将来のことも考えないと土地が生きてこないで、永久に網をかぶせるのではなく、将来のことも考えてほしい。

委員 5-1-1 施策と事業 1 持続可能な農業経営の確立

今、委員が話した部分とこの部分を十分にすり合わせた上で進めてもらいたい。

委員 文言よりも実際のやり方が大事。

委員 4-1-2 基本方針

「自助・共助・公助がそれぞれに連携した地域ぐるみの防災対策」とあるが、互助も必要と言われている。防災に対して適用されるべきかわからないが、共助と互助の違いを吟味して互助を入れるかどうか検討してほしい。

委員 今の話だが、県の防災計画では自助・共助・公助となっている。共助の中には相互に助け合うという互助的な内容も含まれている。

委員 大雨の際、真備町では近所で声を掛け合ったところや、公の放送は聞かなかったが今までの経験から逃げた人は助かったと聞いている。

委員 4-1-2

自主防災にかなり力を入れないといけないと思う。避難先は避難者をすべて収容し賄えることができるのか心配。賄えないなら、大きな倉庫などを持っている民間企業と連携できないか。

4-5-1

ロマンスカーを停車させたら山北駅の乗降客が増えるのではないか。小田急線が入り込むのは可能かどうか。これができれば人口も増えるのではないか。

事務局 避難所は町内に7か所指定されている。全住民が避難できるかと言えばそれは不可能。自宅が倒壊して生活できなくなってしまった方や、危険が及びそうな方の利用を想定している。企業との連携については、災害時にできるだけ協力してもらえようお願いはしている。食料品も協定を結んでいる。小田急線の御殿場線への乗り入れは、御殿場線沿線の首長が毎年要望をしているが、現状では難しいとの回答を得ている。

委員 これは後期の基本計画で、これまでにできなかったものを辞めるのかというと続けてや

ろうとしている。政策の中でやるかどうかということ。

4-1-2 事業 4 応援協定締結の推進

例えばこれは、前期計画にもあって締結が終わっていなければいけない。例えばトラック協会との災害時の協定は他のまちはできていて、山北町はできていない。いくら書いてあっても仕事として取り組まなければ変わらない。応援協定は大事なことなので、あえてここにまた入れるのであればちゃんと実施するというのを、職員含めて執行部で考えなければならない。いい計画を作っても意味がない。計画と施策は違う。そこをしっかりとしないと何を言っても意味がない。

4-1-2 施策と事業 4 防災意識の啓発 事業 3 土砂災害警区域及び特別警戒区域の周知

しっかりやらないと計画を作っても終わりにってしまう

4-1-3 施策と事業 1 消防力の強化

消防団員は足りない。増えないのであれば編成の見直しをするか、自治会等へのお願いの対応をとるのか、末端まで話が来ていないのだから、行政としてもっと考える必要がある。

4-1-4 施策と事業 2 防犯灯の整備

防犯カメラは都市部の犯罪防止、発生したきの対応のために設置されている。地方には防犯カメラが少ない。防犯灯を整備し終えているのだから、いっぺんにできなくても計画的にやるなどの考え方が必要。防犯灯に防犯カメラの設置を考えてはどうか。

4-4-1

都市計画は、今いる人たちが山北から離れず、いてくれるような対応を用途地域の見直しを含めて考えるべきではないか。行政だけでは難しい問題。どこかに出ていたが有識者会議が開かれていないので、有識者会議での検討材料に入れていてはどうか。

4-2-1 施策と事業 2 環境にやさしいまちづくりの推進

よそは環境エネルギーの推進に積極的に取り組んでいる。事業に「新エネルギービジョンの調査・研究」が出てくるが、どこでも再生エネルギーを含めて積極的な展望を持って取り組んでいる。山北町にはその計画がない。議会も取り組みだしたと思う

が、こういうことについてやらないと「環境にやさしいまちづくりの推進」という言葉はよいが、何年頃までにこうするとしっかりやってほしい。他のまちはやっているのになぜ山北はまだ調査の段階なのか、もっと考えないといけない。

4-2-2 施策と事業 1 水源の森林づくりの推進

水源地域の最も広い面積を持っている町として、水源の森林づくりの事業を積極的に、県のお金を使ってでもやり遂げていかないといけない。森林環境税ができて配分が少なくなるとなかなか進まなくなる。無理を言っても県と連携をとっておくのはこの部分ではないか。国有林、県有林がたくさんあるが林道整備はされていない。林道・作業道が近隣の水源のある町と比べて面積比率でどうなのか。そういうことも踏まえて施策に反映しなければただ文書化しただけで終わってしまうのではないか。

4-2-2 施策と事業 3 河川整備の推進

2級河川の整備は県がやるものであり、町はその活用をする計画をもっていると町民が喜ぶのではないか。下流の開成町も松田町も河川を活用している。なぜ山北は河川活用ができないのか。取り組みをしていないということではないか。

4-2-3 事業 1 足柄上地区において資源循環型処理施設の整備を検討

事務局が南にある。どこにできるかは概ね想定できる。これがスムーズにいくには、設置地域における配慮がないと難しい。

4-2-4 施策と事業 2 有害虫の駆除

ヤマビルは、津久井では県と一体的に調査して取り組んだ。その後は知らないが、それでもダメだということであれば、本当にどうするか考えないと今の処理の仕方だと難しい。

4-2-5 事業 2 地域の身近な公園・緑地等に草花を植栽する各種団体への苗木等の支給

各団体がやってくれることはいいことだが、快適な環境の整備なのだから、町としてこれから人を呼ぶのに空間をどのように考えていくか。JR のところの桜も何年かすればダメになる。山北はこれというものを今から考えていかなければならないが、植栽をこういうふうにやろうというものが見えてこない。大野山や河村城址に桜を持ってこさせて私が植えたが、こういう名所をつくるということを町が考えないといけない。

4-3-1 施策と事業 2 町営住宅の整備

町営住宅を作っても人口は増えていない。商店街は衰退している。近隣にこれほど町営住宅を持っているところはない。低所得者住宅が多かったがために、税に頼るところが大きくなった。今はどのまちもほとんどつくらない。PFI で松田町がつくった程度。アパートを持っている人や不動産業者と、将来の住宅マスタープランがどうあるべきか考えないといけない。マスタープランでは町営住宅を減らす、中堅所得者住宅をつくるということを私がやってきた。PFI でなくても、町がお金を借りたほうが金利が安くて済むならそうすればよい。町の財政計画とともに考えたほうがよい。「PFI 等の民間活力を活用した町営住宅の再編整備を行います」とすると、実施計画のように見える。行政と議会が連携を持って内容を詰めていく必要があるのではないか。

4-3-2 施策と事業 4 管理体制の強化

水道施設の維持管理を民間委託できるようになった。「水道施設維持管理の民間委託や広域化連携を検討していきます」とあるが、山北のような広い面積のところでは本当にできるのかも慎重に検討してほしい。

4-3-4 施策と事業 2 河村城址歴史公園の整備

これは前期からずっと出ている。後期計画でも終わらない。「予算や補助金が確保できる範囲で」と書いてあるが、これは何を言っているのか。神奈川県教育委員会の予算ならものすごく時間がかかる。あそこはお金がない。知事部局からお金を持ってくるようなことを考えないといけない。

4-3-4 施策と事業 3 山北つぶらの公園の整備促進

これは県がやっていくもの。第2期工事、第3期工事をやるかどうかは県の責任。山北町が案をつくってやらせてくれと言ったものではない。県に責任を持った整備をさせることが大事。

4-4-1 事業 2 山砂利採取計画の推進、3 山砂利採取跡地利用の調査・研究

言葉としては出てくるが、平地化計画の変更に対して何年かかるか、国・県に対しての町の責任、これは難しい。この部分について町は何の整理もできていないのではないか。前期計画でやるべきことであつたし、こうした進捗の悪い部分についてはもっとしっかり考えてほしい。経緯を知らない職員もあり、行政の責任において国・

県へしっかりとした対応ができない限り、採取計画の推進や跡地利用の調査・研究などできない。もう一度しっかり議論する必要がある。知らない人からみれば立派に見えるが、知っている人からみればデタラメ。

4-4-1 事業 1 高松山・向原山基盤整備の検討

東名が来たからどうこうというよりも、将来どういう土地活用をするのが大事。再生エネルギーと絡めてもよいが、何年経っても前期計画の中では何も検討されていない。後期もこれでやっていってよいのか疑問。挙げておこならこの辺もしっかり議論しておいてほしい。

4-5-1 施策と事業 1 公共交通網の整備

共和福祉バスは町がやってきたことではない。町がやっているようなことになっている。町内循環バスの車両も古くなってきている。今後こうした部分をどうするのか。御殿場線沿線活性化の推進もはっきり政策に反映できるかを検討して、計画に反映したほうがよいのではないか。

4-5-2 施策と事業 2 県道の整備促進

東山北停車場線はようやく工事が始まった。小田原山北線は狭隘部分の整備が進められていない。山北藤野線は断念。しっかりと道路構想を入れる必要があるのではないか。山北藤野線でもいいし、それからの延長でもいい。世附山中湖線、今は通れなくなっている。町が将来発展するために、こういうものを計画にあげていくことは大事。オリンピックの時に通れないがどうするのか考えてもらいたい。

4-5-2 施策と事業 3 広域幹線道路の整備促進

前期計画にもあったが何も動かせていない。議会で質問も出ている。促進などできない。掲載するのであれば、できることなのかどうかしっかり議論してほしい。

4-5-3 施策と事業 2 農林道の整備

森林面積比率で私は考えた。この部分、山北は特に力を入れなければならない。

事務局 防犯カメラ等一部掲載していない部分があったため、担当課と調整させていただく。その他、掲載するならしっかり取り組んでいくようにとのご意見をいただいたので、担当課に戻して修正等必要があれば修正する。

委員 載せるなら取り組んでもらわないと困る。進捗状況ももらっているが、私からみれば0%なのに数字があがっているものもある。大事なことから町長にも言って実施計

画をつくってもらわないと困る。

事務局 そのような形で進めさせていただく。

委員 4-1-2 施策と事業 5 自主防災組織等の育成、強化

共助と公助は重なり合う部分がある。避難場所として7か所あるが、全部はカバーできない。でも町民はそうは思っていない。行けばなんとかしてくれるだろうと思っている。災害があれば以前は3日間自分で生活できるようと言われていたが、今は1週間と言われている。そういう中でもう少し地域の力を使う必要があるのではないか。避難所の運営はどうなるのか。役場にすべてお任せしておいてよいのか。職員の到着が間に合わないこともあるのではないか。そこで、自主防災の中の防災リーダーの育成ということになる。町としては進めたいが候補者がみつからないと聞いた。でも災害は待ってくれない。候補者がいないからいいんだということのないように。私たち自治会には働きかけがあるのか。訓練なども提案したい。避難所も含めて自助に入るのではないかと。山北の人は町に対する信頼感が強いのでなんとかしてくれるだろうと思っている。しかし、自分たちでもそこへ踏み込んでいかないといけないのではないか。「自主防災組織等の育成、強化は」、即進めないといけなと思う。日曜日に災害が起きたらどうするのか。山北中の鍵はどこにあるのか。どこまで使っているのか。町で計画は持っているだろうが、私たちには情報が届いていない。防災リーダーの普及を具体的にすぐに進めてほしい。

4-2-3 施策と事業 1 分別収集の推進

「山北町一般廃棄物処理基本計画に基づき分別収集を行います」ということだが、計画をつくってからかなり時間が経っている。山北駅周辺は空家かなりある。高齢者だけの世帯や一人暮らし世帯もある。しかし、ごみ収集の計画については変更がなされていない。全国的にも年寄り一人でごみステーションに運ぶことができないといった問題がある。あるところでは中学生に手伝ってもらって、そのときに券をもらって何かに交換できるといった仕組みでやっているところもある。状況が変わってきているということも考えないといけない。役場の方には今を見てもらいたい。今を見るということは未来を見るということ。16,000人から6,000人いなくなったのだから、今までの体制ではいけない。連合自治会としても協力していきたい。

4-3-2 施策と事業 4 管理体制の強化

水道については、所有権は移らないけれども運営権は移してもいいと。報道によると、中国の人が全国の水源地を買い占めている。民間活力という言葉もあるが、既に失敗している国もあると聞いた。空気と水は日本は恵まれているが、私は民間の競争力に任せるのは危険だと思う。

委員 4-1-2 施策と事業 5 自主防災組織等の育成、強化

自主避難所があるが浸透していない。誰が詰めるとか誰が食料を配布するとか。住民の意識を高める施策が必要ではないか。

4-1-4 施策と事業 1 地域防犯活動の充実

小学校など公共施設に防犯カメラが必要ではないか。

4-2-1 施策と事業 1 都市計画の推進

「都市計画マスタープランに基づく計画的な都市計画事業を推進します」とあり、国や県から文書がきていると思うが、それを素直に受け取って山北町にあてはめて具体策を考えていったいいの。都市と町は違う。どうしたら山北町でもできるのかを検討していく必要がある。

4-2-3

山北町はきれいな町とは言い切れない。歩いていてもごみはたくさんある。マナーで解決できる部分もある。剪定枝を燃やして煙が出るとすぐに通報されるので、簡単に燃やせなくなっている。そうであれば捨ててしまえとなりがち。これをカバーできる施設があるはず。開成町では無料で処理してくれる施設があるとのこと。なぜ山北町は無料で使えないのか。このあたりを入れてもらいたい。

委員 衛生組合のとなりに施設ができたから開成町の住民は無料なのか。

事務局 西部清掃で直接搬入を受けるような形で検討している。

委員 計画の中に住民が廃棄物について意識高揚できるような形のものを入れてもらいたい。

4-5-1 施策と事業 1 公共交通網の整備

これから高齢者が外に出ていろいろできる体制づくりが必要ではないか。今の循環バスのバス停までかなりの距離を歩かないといけないという問題が出ている。1 自治会の中に 10 人乗りの小さなバスが通る路線を張り巡らせて、高齢者が動きやすい体制をつくってもらいたい。

4-5-1 施策と事業 2 駅及び駅周辺の整備

JR を使うお客さん、山へ行くお客さんが健康福祉センターのさくらの湯へもっと簡単に來ることができないだろうか。なぜ駅から連絡通路をつくらないのか。すぐにはできないだろうが無人駅でできないことはないと思うので、人を動かす仕組みも考えてもらいたい。

4-5-2 施策と事業 3 広域幹線道路等の整備促進

「県域を越えた広域幹線道路の整備を促進します」とあるが、山北町にはスマートICができようとしている。うまく活用できるように、そこへ道がセットになればと思う。中川温泉からやまぼとのほうへ抜けることができ、色々なルートで観光客が増えるのではないか。

会長 4-1-1

交通事故は減少傾向とのことだが、高齢者が係る交通事故は増加傾向だと書かれている。その対策として、警察などとの連携が書かれているが、今後一層多くなると思われることから、より身近な自治会や自助を促す具体的な取り組みの記載があってもいいと感じた。

4-1-2

ここに掲載されているBCPは町役場のBCPだと思うが、企業のBCP作成支援といった記述も必要ではないか。

4-2-3 指標

「再資源減量化推進団体奨励金対象数量」など、目標値が下方修正されているものがみられる。後期計画なので指標を大幅に変えるということではないと思うが、かなりの下方修正を行う場合には取り組みを強化することが妥当ではないか。特にこれは目標値が平成24年の現状値よりも低くなっている。こういった場合には活動の指標になりにくくなっているのだから、取り組みを強化するか指標を見直すか、どちらかでないと意味をなさないのではないか。

4-2-4 指標

不法投棄防止パトロールの実施回数は、現状維持の指標になっている。こういったところも取り組みを強化するか指標を見直すことが必要ではないか。指標をつけるなら意味があるものでないといけない。

委員 これらの意見をどのようにして実現するのか。課長会議で審議するのか。議会で審議するのか。

事務局 ご意見は担当課に戻し、再度調整して2月の早い時期に素案を作成する。役場の三役と各所属長に確認していただく会議を持ち、次の審議会に示させていただく。審議会後、2月中旬に町議会の臨時会があり、その際全員協議会で素案を説明する。最終的には3月の定例会で全員協議会に案を示して議会で説明する。議決は必要ない。

委員 議会でおかしいという意見があると印刷が間に合わなくなるのではないかと。

事務局 策定シートの右側をまとめて素案にし、製本したものではなくホッチキス留めしたものを使用することになる。

委員 早く議会に出してもっともな意見は入れたほうがよいのではないかと。議会にはチェック機能があるのだから。

事務局 皆さんの意見を踏まえた素案をもう一度見ていただくことになる。調査検討だけでなく目標を持ってやるという意思を示すとか、無理だったら削除するとか、そういうものもあるかもしれない。もっと前向きにやるものもあるかもしれない。その辺を検討してまた皆さんから意見をいただく。町としては次からは意見に対して文書で回答したい。役場の中ではここに載せたものは5年間でやるんだという意識づけを行う。進行管理も定期的に実施していく。

委員 議会には意見を聞く時間をしっかり取ってもらいたい。言葉は悪いが議会軽視だと言われたらそれまで。議会ではやるのかという質問が出ていたが、前期計画にやると書いてあるのだから、今どうなっているかという質問でなければいけなかった。議員も前期計画を見ていない。せっかく作ったものが生きていない。議員にも責任を持たせる意味でしっかり議論してもらいたい。

事務局 町と議会と共有した中でやっていきたい。

委員 4-5-4 事業 1 狭あい道路の拡幅整備

湯坂～日向間（並松）は狭い。連休には交通量が多い。山の中を通して県道から県道へ行くのが農免道路の趣旨だが、ガソリン揮発税という補助があったので、今の道路ができています。湯坂～日向間は児童生徒の通学路にもなっている。非常に狭くて危険性が高い。町長には現地を確認してもらっている。地元の地主の

了解を得ているので、早急にやってほしい。

事務局 順次広げるように進めている。

委員 ここで議題にすることではないのではないか。循環バスも通れているし、子どもの通学時間帯に他の車を制限するなど方法も考えられる。

委員 ここは町道。バスが来ると止まってしまう。

委員 基本計画に書くのだから、あとは実施計画。予算をつけるかどうか、要は執行者の判断。何年でやるかは別にしても取り組む姿勢でやってもらわないと困る。地元は要望をすればよい。

委員 部分的にでもやってもらえればよい。

事務局 相手があるものはなかなか書けない。例えば JR、便数を増やしますなどとは書けない。したがって促進という書き方になっている。町でやるものはしっかりと書く。

委員 すぐやるとは書けるわけがない。要はそういう姿勢でやってもらいたいということ。動かなければできない。広域道路も国に言っても県に言っても動かない。山北は仲間を一杯つくらないといけない。他県が理解し国が理解するといったステップが必要。

委員 ゆっくりやってくればよい。

事務局 書きぶりを皆さんにしっかり見ていただいて、進行管理は役場で行う。

委員 これは基本計画。毎年度の実施計画の中で中身を詰めていく、そういう考え方でよいのではないか。だから会長が言ったように目標値が大事になる。目標値が下がっているのは問題ではないかという部分は、はっきりしておいたほうがよい。

委員 狭あい道路の整備はいい。この中に湯坂線だけをやると載せるわけにはいかないのではないか。

【第5章】

委員 5-4-2

山砂利の跡地の関係は、町が指導すべきこと、民間がやること、地主がやることをしっかり整備する中で取り組まなければならないということ、ここに書き込んでいく必要があると感じている。

委員 5-2-1 施策と事業 4つぶらの・大野山周辺地域の整備

大野山は牧場が撤退して今若い方が個人的に牛を飼っている。あそこは景観もよ

く観光資源になっている。町で助力することができないか。

事務局 町も支援している。

委員 5-1-1 施策と事業 1 持続可能な農業経営の確立

持続可能なという言葉は重い言葉。安定と持続可能の違いを十分認識して施策を打ってってもらいたい。

委員 5-2-1

空き家対策もあるので、移住ではなく改修しての民泊はどうだろうか。町のホームページで載せるとか。農業も農地が空いていますと。農地銀行という言葉があったが、ホームページにリンクを貼るなどしてはどうか。農地を買えないが借りてやりたい人はいるのではないか。できれば若手に来てもらいたい。農林、商業すべてそうだが、後継者問題が社会的問題になっている。事業承継に関わる形で、自分のところを他人に譲れるという仕組みを検討してほしい。家族ではなく、他人と他人の話し合いのほうがシビアに話すことができる。

委員 5-1-1

持続可能な農業経営の確立というのは、山北全体の中から農業をどのようにしていくかという部分がしっかりしていないと歯抜けになってしまう。白地だと住宅がどんどんできてしまう。基本的なものがないといけない。

5-1-2

山北の材木はもうダメだと言われている。出すには費用がかかる。林業家が林業で成り立たなくなっている。そういう中で林業を継ぐのが大事であれば、集成材につなげていくことができないか。ただダメだということではなくて、何か考えてもらいたい。林道がいかに大事かということ。

5-1-2 施策と事業 3 多様な森林利用の推進

森林セラピーという言葉はよいが、体験に来ている人は少ない。セラピーだけでなく国有林や県有林を活用する、それは道路につながる。林野庁や県と議論をしてもらいたい。

5-1-3

関係業者間がもっと連携できるような取り組みをするとよい。

5-2-1 施策と事業 1 観光マスタープランの推進

いい観光名所もあるし、それを生かすには道路網がないと生きてこない。ユーシンも洒水の滝もそう。必ず道路と一体化してくる。国と県の力を活用する取り組みを今から考えないと書いただけになってしまう。

ジャージー牛のアイスクリームは人気がある。ふるさと納税の返礼品でも人気がある。したがって、町ができなくても町が連携をとってやっていくことが必要。

委員 かどやの肉はふるさと納税の返礼品にあるから、そういうものを入れても面白いかもしれない。

委員 そうしたらやっている人も張り合いが出てくる。畜産業者の連携をもっと強固に入れたらよい。

5-2-3 事業 2 あしがら観光協会等との連携強化

パンフレットを見ても山北が一番小ばかにされている。言葉でいうならしっかりしてほしい。イベント内容もただやって終わったではなく、その結果どうやったら良いイベントになっていくか絶えず検討していく必要がある。「イベント内容も見直し」となっているが見直したことがない。実行してくれないと困る。

5-3-1 施策と事業 2 商業経営の充実

山北町商工会への助成はしてもらわないと困るが、空き店舗の活用とかやまきたブランド品に対する積極的な取り組みをしてもらいたい。山北駅あたりは空き店舗がいっぱいになってしまった。住居地域も空き家が増えた。あの地域をもっと立体をみて考えないと山北の活力は出てこない。メインのところは今の状況になっているということを考えてもらいたい。

5-4-1 施策と事業 2 工業の活性化

「中小企業の集団化、共同化」これはどうやってやるのか。「山北町商工会等と連携し、企業経営の安定を促進する」これはやっていないのではないか。言葉だけでなく中身を考えたほうがよい。地場産品の開発、商工会と連携する、各種研修事業を実施する、どれもお金がかかる。しっかり考えてほしい。

5-4-2 施策と事業 2 山砂利跡地の有効活用

山砂利採取指導要綱に基づく指導とあるが、これがしっかりできていれば今のような状況になっていない。これは前からある。その次に「川西、西ヶ谷区の山砂利採取跡地利用の調査、研究」とあるが、調査する前に平地化計画を見直さないといけ

ない。これは砂利屋の問題でなく地権者の問題。だから早くやってほしい。

事務局 地権者も砂利屋も町に平地化計画をやらせようという動きがみえなくもないが、町がやると変なことになる。

委員 町がやることではない。地権者が努力したら、その跡地活用を考えることはよい。文言を直せとは言わないが、その点は理解しておいてほしい。

委員 5-1-1 事業 6 オリーブ栽培の促進

オリーブの栽培を推奨するのはよいが、決まった果樹園の中でやっているのみかんを辞める人が出ている。どちらかを増やせばどちらかが減る。新たにオリーブをやろうとしても、生産、加工、販売まで町がどこまで考えていてくれるのか不安な人もいる。JA はレモンに力を入れている。JA と話し合いがうまくできていないのではないか。整合性も考えてもらいたい。やれよやれよで梯子を外されては困る。行き違いがないような形で掲載してほしい。

5-1-2

森林組合や建築業者が一体となって町の木材を使ったログハウスをつくってはどうか。町に移住してくれる人への目玉とし、人口を増やしていければと思う。それが山北町の林業を生かす一つの道ではないか。そのためには、道もつくらないといけないしお金の出所も考えないといけない。

5-2-1 施策と事業 4 つぶらの・大野山周辺地域の整備

県の事業だと思いが山北町でできることも考える必要がある。つぶらの公園を生かすには、大野山を使った使い方、大野山からつぶらのにケーブルで降りる遊び、こういう何か日本一のものを作って足を運んでもらうことも必要ではないか。事業として「大野山山頂部未利用地の活用の検討、推進」というものもあるので、その辺で検討してほしい。山北は90%が山だと自慢しているのだから、もっと山を生かしてほしい。山の中に自転車ロードレースのコースをつくって遊んでもらうことはどうか。山を生かした観光もやれるとよい。

5-2-3

山北町のどの辺に観光客が多いのか、そういう調査をしたことがあるか。何を目当てに山北町へ来るのか。そこを中心にして山北の観光を考えていけばよいのではないか。

5 - 5 - 1

若者が町内ではなく町外に働く場を求めるようになってきている。町内企業に対して町民の就労を推進するということもあるが相手次第。積極的に町民を採用していると聞いたことがない。山北の若者に働きたい業種、働きたい場所を調査したことがあるか。それによって働きやすい環境づくりのベースができていくのではないか。大人が考える以上に若者は情報を多く持っているので、このあたりの考え方をに入れてもらいたい。

事務局 山北町の日帰り観光客は、年間 160 万人とか 170 万人と言われている。商工観光課で交通量調査を実施している。丹沢湖に観光客が多く来るといことで、車がどれくらい通るか年間 90 日くらい実施している。洒水の滝も何日かやっている。そういったものをベースに、丹沢湖にこれくらい来ているのであれば他の観光スポットにも何割か来ているだろうという推計をして、数字を積み上げている。正確な数字は出しづらい。

委員 調査は難しい。人間が張り付かないといけないので。

事務局 イベント時にも人数を推計しプラスしている。

委員 山北町の観光業はどうか、商業はどうか、工業はどうか、そうした実態を把握した計画づくりになっていないように感じるところがある。広大な土地が空き地ばかりになってしまう。そこと連携を持つという取り組みをしないといけない。JA はレモン、町はオーブなど、その連携がないとその業種の振興は図れないのではないかと。町の総合計画に出てくるなら、町はこれをやっていきたいというものが現実ないといけないが、地域がやっていたり、団体がやっていたりするものも全部網羅して、町がやっている総合計画になっている。そこを考えたほうがよい。

会長 新規事業として、バラマキ型になってしまうが、親の近くに居住していく場合に助成金を出すなど多世代で住むことの支援とか、町内に就職した場合に助成金を出すとか、企業に対しても本人に対してもあるが、税収増に対する政策展開があってもよいかもしれない。そこに関連するのは就労の問題で、次世代近接ということで期限を区切ってもいいかもしれないし、産業支援にもなる政策だと思う。

5 章は比較的新規事業が展開されていてよいと思う反面、全般的に具体的な記述が少ないように感じる。可能であればもう少し具体化してもらいたい。

事務局 例えば、オリーブの関係。栽培することは推奨するが、ハーブだとかオイルだとかはどうかという、搾油機を町で導入するよりも協議会でやるという方向を出したら、そこで全部受け取るという方向を、そこで販路もやると、もうちょっと書き込んでもいいのかなと。他にも具体的に書けるところは書いてもいいかなと、少し考えていきたい。

委員 もっと団体と話し合ったほうがよい。

事務局 総論になっていて、もう少し各論に入らないといけないところもあると思う。

会長 各団体の調整部分が多い章ということになる。

委員 商工も同じ。町は補助金を出してそれでいいのではなく、町と連携をとってどのようにしていくか議論する必要がある。

事務局 そのとおり。例えば商工業。商品券は町がやっているのではない。プレミアムは自分たちがつけた中でやったらどうかと言いつけているが、私の顔をみると逃げてしまう。

委員 逃げてしまうのは、連携を取っていないということ。話し合いを持ってもらいたい。

事務局 議会でもやまきたブランドの開発を町がもっとやるように言われるが、町が開発するのではなく、町は民間の方が開発するための土壌をつくるなり、仕掛ける場所をつくるなりをやるのであって、町がそれをやってしまったら 1,000 人、2,000 人必要になる。しっかりとした住み分け、考え方が必要。

委員 あなたたちこれをやってくれと、町が積極的な取り組みを行っていないから進んでいかないのではないか。松田町はバイオに力を入れている。

事務局 バイオマスと発電所が連携した中で、間伐材を使ったら林業家の生活はどうか、というようなものができつつある。こうした部分をもう少し書く必要がある。メリハリを考えていかないといけない。

委員 山北ブランドに熱心なグループは、やっている。例えばとれたて山ちゃん。手作り味噌をつくっている。みんな良いブランド品をつくっていて評判も良い。商業にしても工業にしても連携プレイをうまくやれば情報も密になって、町の飛躍的な発展につながるのではないか。

4. その他

次回は2月14日（月）14:00～

事務局 長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。以上を持ちまして山北町総合

計画審議会、閉会と致します。大変お疲れ様でした。